

# コミュニティ だより

徳島市  
徳島市コミュニティ  
連絡協議会  
〒770-8571  
徳島市幸町2丁目5番地  
TEL(088)621-5510  
FAX(088)621-5511

## 徳島市民防災訓練

# みんなの力を、 防災の力に



丈六コミュニティ協議会会長 **梅本 辰雄**

度重なる自然災害が日本各地で発生し、防災に関するさまざまな取り組みがなされている中で、コミュニティセンター

ーや地域の各種団体また各町内会が担う地域のコミュニティの役割は、日々の生活とともに、災害時における大きな力



ロープワーク訓練



救出訓練

となるものです。

これまで地域を支えてきた各種団体の高齢化や構成員の不足など、地域のつながりの希薄化などが進んでいます。

今こそ、一人ひとりが自分の身を自分で守る意識とともに、日頃から近所の方々と問題を共有し、みんなで問題について考え対処することが大事です。これが、住民同士が協力し、被害を防ぎ減少させる「共助」となります。

丈六町での防災に関する大きな行事としては、平成二十八年十二月、渋野小学校区の住民を対象とした徳島市民防災訓練が渋野小学校において行われました。訓練には丈六



応急処置訓練

町の多くの住民も参加し、小・中学生を含め二百五十名余りの地域の住民が参加しました。訓練では、避難所運営・救出・応急処置・炊き出し・資機材取り扱いなどのグループに分かれての訓練が行われました。

また、コミュニティセンターは地域の一般災害時及び地震災害時の避難所となっており、各種防災機材が保管されています。これらの防災機器を使った日々の訓練が必要です。災害に備えての地域の防災訓練などで日頃から使用方法や防災活動に必要な知識・技術を習得し、災害に強いまちづくりを進めていくことができます。

まず望まれます。  
平成二十八年度には、災害用移動炊飯器が、丈六町に一基配備され、センターにて保管されています。またセンター利用者のためのAED（自動体外式除細動器）が設置されました。



# 勝占中部

## ふるさとウォーク



勝占中部コミュニティ協議会

勝占中部ふるさとウォーク

チームリーダー 永田 修



平成元年の勝占中部コミセ  
ン発足時から継続実施してい  
る「ふるさと再発見事業」の  
「ふるさとウォーク」活動を  
紹介します。  
はじめは年に一回「歩け歩  
け大会」として実施、毎回老  
若男女数十人が参加しました。

行き先は、主に源義経の伝  
説地巡りです。義経が参拝し  
たという勝占神社、義経に落  
とされた桜間城跡（熊山）、  
義経が通過した恥ずかし越え  
では道なき山をよじ登ったり、  
あずり越えを越えて上八万町  
へおりたり、義経が立ち寄つ  
たという東海寺へも行きました。  
間もなく年に二回、平成二  
十年からは年三回実施、とき  
には事前に勉強会もします。  
地区内の神社・小祠・寺院・  
寺跡・庵跡・二十一体の地藏  
尊・中世の五輪塔・石碑・日  
本最古級の大松川橋・旧土佐  
街道・高札場跡など、勝占中  
部地区の史跡巡りは完了。  
次は地区外の史跡名勝へ足  
を延ばしました。  
多家乡地区は丈六寺・条里  
跡・桜間の池跡・洪野の古墳  
群・八多の五滝・中津峰城跡・



如意輪寺・青蓮院・立岩神社、  
飯谷では紅葉の七釜・朝立比  
古神社・鳴滝・犬返り猿返り。  
方上地区では森神社・神光  
寺の石仏・阿波焼きの窯跡・  
一里松跡・大谷の藩邸跡・日  
本一低い弁天山・法花谷の法  
華寺跡。  
論田地区では大神子・のろ  
し場跡・小松島地区では建島  
神社・成願寺・桂林寺・金長  
神社・日峰神社・弁天神社。  
最近では、もう少し足を延ば  
し、一宮城跡・一宮神社・大  
日寺・伏拝八幡神社・宅宮・  
佐古の万年山墓所・勝占と縁  
がある勢見山観音寺・金刀比  
羅神社・忌部神社へ行きまし

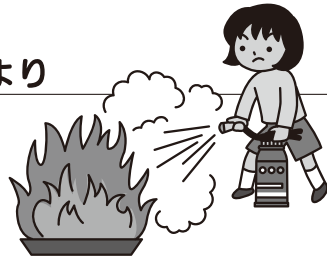


た。  
二十九年間一度の事故もな  
く、毎回参加者は和気あいあ  
い笑顔で挨拶を交わして解散、  
気分爽快のウォークでした。  
来年は三十年になるので、  
計画を見直し、若い人をたく

さん勧誘して、今後も年に二  
〜三回実施する予定です。こ  
の活動は、参加者相互のコミ  
ュニケーションの場となり、か  
つ郷土の歴史を理解する最適  
の行事です。



# 八万地区の災害への備えと防災訓練



八万地区自主防災会連絡協議会 会長 久次米潤一

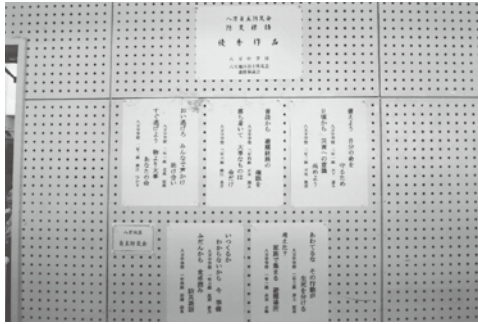
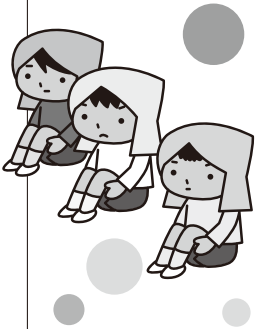
いつ起こるかかわからない災害に備え、準備をしておくことは大切で必要なことです。私たち協議会では、「自分の命は自分で守る」「自分たちの町は自分たちで守る」を主旨として結成された地域の自主防災会を支援する組織であり、毎年防災・減災を目指し、地区内の各地で訓練や啓発活動を実施しております。八万地区では宅地化で近年人口が増加しているものの、高齢者も増加、平日の昼間は子どもや高齢者が大半で「共助」の

担い手は少なく、災害時の大きな課題となっています。それを踏まえ、災害時基本である「自助」の徹底と強化が急務となつてきています。対策としては、八万中学校での防災標語の募集等により、救援の担い手の育成も兼ね、啓発活動を継続的に実施しています。また、昨年の防災訓練では、定番の起震車による地震体験・火災時のけむり体験等だけでなく、「避難」を主題とし、地域特性に合わせた身近な場所で参加しやすい訓

練を実施してきました。まず避難時に大切なのは「食」であるとし、自分たちで作る炊き出しは、必須項目とし毎回実施してきました。次いで参加者が自分でやってみる訓練として避難場所への山道整備を草刈機やチェーンソーを使用して実施し、非常用の薪作りもしました。また高台に位置する町内会での訓練では、津波発災時に近隣からやってくる避難者救護用にも使用できるテント設営や農業用ビニールハウスの仮設も実施しました。火災発生時のバケツリレーや子どもたちによる放水も実施しました。その他に指定避難場所の民間介護施設を会場とし、避難場所の認知と徒歩での参加で避難実地訓練も実施しました。防災意識は高まっております。訓練には多数の参加がありました。



高台団地での子どもによる放水訓練



中学校防災標語優秀作品



避難所への山道樹木等伐採訓練

今年には避難支援マップの作成が予定されており、地震・津波だけでなく、水害時の避難にも役立つ完成度の高い避難マップを目指して取り組んでいく計画であります。



火の用心



レンコン畑

昨年「わくわくコミュニティ  
イフエスタinとくしま」が実  
施された折、川内南コミュニ  
ティ協議会も阿波十郎兵衛屋

# 川内に来て みいへんで!

川内南コミュニティ協議会 会長 河井 宏紀



川内33観音霊場の石仏

敷の協力を得て出店し、川内  
特産であるレンコン、サツマ  
イモ、青ノリ等の販売と人形  
浄瑠璃のスライド紹介や川内  
三十三観音霊場の石仏パンフ  
レット等の紹介をさせていた  
だきました。  
好評であつた野菜等の販売  
は、その後も阿波十郎兵衛屋  
敷でイベント時等に実施され  
ており、大変人気があるそう  
です。  
徳島県の主要な観光地、阿  
波十郎兵衛屋敷は県民であれ  
ば知らない人もいないと思  
いますが、行ったことがあるか  
と聞くと、「ない」と言われ  
る方が結構おられます。  
江戸時代から続く人形浄瑠

璃の魅力のみならず、屋敷や  
庭園も江戸時代の心落ち着く  
良き雰囲気を出してあり、  
毎日上演されている人形浄瑠  
璃の他に四季折々に多彩なイ  
ベントも開催されており、一  
二回、三回と行くことに心に  
響くものがあります。  
また、吉野川の河口に位置  
する川内は高速道路、循環道  
路が開通、さらに高速道路の  
南進工事が最盛期を迎えてお  
ります。  
田園風景も豊富で心を引き  
寄せる花が咲くレンコン畑には、  
野鳥の水鳥も多く、サギ類・  
カモ等、なんとなんと、あの  
鳴門で有名になったコウノト  
リが冬場見ることがありま  
す。  
小松海岸で座って水平線を見  
るもよし、吉野川で一番長  
い橋の工事状況を見るもよし、  
このように川内が変化してい  
る中で、明治初期に作られた  
「川内三十三観音霊場の石仏」  
が点在し、サイクリング等で  
回るのも健康に大変良いので  
はないでしょうか。また、阿  
波十郎兵衛屋敷では予約が必  
要ですが、四月から十月の日  
曜日に新町川から川内まで船  
で往来できるクルージングで

頭の中には小学校時代の私  
が鮮明に息づいています。偶  
然にも生まれ育った庄町二丁  
目に建売住宅があり購入しま  
した。その昔は田んぼであり、  
レンゲの花が一面に咲いており  
遊びまわった所です。  
生家の借家は今はなく、駐  
車場になっています。家の周  
りには石材店、洋服店、眼鏡  
屋、製針会社、板金加工所、  
木工所、竹屋、醤油製造所、  
食料品店、菓子店、うどん屋、  
お好み焼き店、貸本屋と多種  
多様な店が軒を連ねていまし  
た。「庄町商店街」であり「蔵  
本商店街」同様に活況を呈し  
ていました。伊予街道で通称  
「旧道」といわれ、物心付く  
前は乗り合いバスが走っていた  
とのことでした。  
私の記憶に残っているのは、  
馬が荷車を引き通行していた  
ことです。

馬は通行中に糞をするのでそ  
の大きさにびっくりし、その  
片づけに苦勞をしたものです。  
今と違ってベビーブームの時  
代で、どこへ行っても子どもが  
多く、町に溢れていました。  
特に夏休みになると、暗くな  
つてから近くの「正善寺」で「肝  
試し」といって上級生たちと  
古い墓地の奥まで探検したも  
のです。  
当時小学校は一校のみで加  
茂名小学校に入学し、一年九  
組でした。一クラスは五十名  
の大人数です。「流れも清き  
袋井の」で始まる校歌の一  
節は六十八歳になつても口ず  
さむことができます。今と違  
つて川の流れば校歌のように、  
袋井用水からの水の流れは速  
く冷たく澄んでいました。夏  
は「たらい」に乗り、子ども  
から大人まで川遊びに興じて  
いました。

のんびり眉山を眺めながら川  
を渡るのも命の洗濯になるで  
しょう。日々変化する川内に  
来てみいへんで!

## 加茂名の 今昔

加茂名まちづくり協議会 沢田 博昭  
庄町二丁目

また、小学校の中庭では校舎の壁に特設のスクリーンを設置して映画会が開催されました。校門には二宮金次郎の像があり、毎日眺めておりました。今は像が危険な状態となり撤去され、台座だけになっています。

田植えの時期は農家の方が足踏みの水車で田んぼに水を汲み上げていました。また牛を引いて田んぼのしろかきをしている光景が残っていました。

加茂名では西部公園も見逃せないもののひとつです。登山道は現在は舗装されていますが、昔は山道そのものでした。桜の木は若く大きく、四月の開花時期は今以上のピンク色でした。しかし、年月の流れに桜の木が多くが根元から切り落とされ株だけになっています。時代の流れを痛感しています。

今、時代が変わり、人も家も商店もすっかり変わってしまいました。家は空き地になったり、建て替えられています。同級生の多くが他の地域に移動されています。

私は庄町二丁目生まれ同じ二丁目に戻ってきたことに何かの縁を感じております。

現在退職をして川柳・俳句・短歌をたしなんでいます。が、

今後は地域で何か貢献できればいいと考えています。



北井上地区コミュニティ協議会

# 長寿を祝う



平成二十八年九月十六日、北井上コミュニティセンターにおいて北井上地区敬老会が開催されました。北井上では、七十七歳以上の五百七十六名の方を対象としております。当日、天候にも恵まれ、多



式典での祝辞

くの方が出席されました。式典では、来賓の方々からのご祝辞、北井上中学校生徒会長からは敬老の日に贈る言葉を送りました。

余興では、幼稚園・保育所の子どもたちによるかわいらしいお歌にお遊戯をプレゼントしてくれました。また、舞台より降りてきて一緒に手遊びなどをしながらふれあいました。これは、出席者から大変喜ばれていて、やさしく子どもたちの顔をのぞき込みながら話しかける姿は心温まるものがありました。

その後一息をつき、お食事をとりながら宮本舞踊教室の日本舞踊の披露、公民館運営委員の女性たちによる北井上音頭、寸劇「オレオレ詐欺」またカラオケ大会などを楽し



北井上音頭の披露

みました。後半には、小学校の児童による歌とリコーダーの演奏がありました。盛りだくさんであつという間のひとときでした。

それも、北井上コミュニティ協議会、北井上公民館運営委員会、社会福祉協議会、民生児童委員協議会、町内会の皆さまをはじめ地域の方々の協力あつてこそ、北井上地区敬老会が開催できるのだと思います。昨年よりも、もっと喜んでもらえる敬老会をと、幾度も打合せ会をし、前日の設営でも多くの方がお手伝いに参加してくださいました。北井上地区は、人口も少な

く市内より少し外れた場所に位置します。だからこそ団結力が強く地域の隅々まで目が行き届くことができるのだと思います。我が地区にとつての敬老会は、子どもから高齢者まで交流することのできる大切な行事なのです。地域をあげてこれからも今まで頑張つてこられた高齢者の方々を祝つてあげたいと思います。



子どもたちとのふれあい

# 東富田阿波踊り

## 「二丁回り」



東富田コミュニティ協議会

東富田には、古くから伝わる阿波踊り「二丁回り」があります。夏が近づくと、あちらこちらで阿波踊りのぞめきが聞こえ、今年も阿波踊りの季節が近づいてきたなど感じます。

昔、東富田地区ではお盆に



練習風景

老若男女が阿波踊りで町内を練り歩き、道ばたの通行人まで巻き込み一日町内を賑わせたといわれています。この「二丁回り」が今日まで引き継がれ、現在は規模も小さくなり昔の面影は薄れてきていますが、子どもが主役となつて、子ども阿波踊り「ほなけんど連」として実施しています。この「ほなけんど連」は毎年お盆直前の日曜日に実施しております。すでに夏休みに入っている子どもたちが午後七時から八時までの一時間、コミュニティセンターで約十日間練習をし、本番に備えます。特に、踊り経験のない子どもたちの参加を奨励し、将来どこへ行っても徳島人としての阿波踊りができるようにと体験をさせております。近年は、親の転勤で県外出身の子ども

たちも多くなつてきております。指導は、昔の「二丁回り」の経験もあり、現在「ほなけんど連」の連長をしていただいてる小柏登洋様と若手の有名連「阿波扇連」で活躍をしている田中宏志様を中心となつてこれに当たつてきています。近年では、東富田あげの行事となつており、多くの皆さまがいろいろな形で参加をしてくれています。途中安全のための交通整理には、防犯委員様、健全育成会の皆さま、消防団の皆さまなどが、また、笛、太鼓、三味線等の鳴り物は、有名連に所属している皆さまが多く集まってくれてきてくれています。

踊り当日は、

午後六時にコミュニティセンターを出発して近くのグループホーム「ひまわり」を皮切りに公園、駐車場、最後は地域の氏神である明神様



富田中央公園での踊りの様子

まで約二時間、大人も加わり、それぞれの個性に応じた踊りを楽しみます。明神様で最後の踊りを終え、地域の皆さまが準備してくださったスイカやジュースで喉を潤し、午後八時頃に終了します。



### 編集後記

徳島城表御殿庭園を造つたのは、上田宗箇です。その庭園の朝日の昇る所に「ソテツ」を植えました。小中学校でも玄関にソテツが植えられています。ソテツは宇宙を創造した鳳凰の化身なのです。子どもも学校も健やかに幸せに大きく育ってもらいたいとの願いが込められています。どの地域もコミセンも同じ願いが込められています。

丈六コミセンは町民の防災意識の高揚と訓練による災害に強い町づくりを進めています。八万地区でも自助と共助の実践訓練を重ねています。勝占中部は、ふるさとウォークの紹介で、義経伝説巡りで貴重な説明がありました。川内に来てみいへんで！は十郎兵衛敷と庭園、人形浄瑠璃の上演、魅力満点です。加茂名の今昔では、最古の商店街と伊予街道、日本百選の西部公園の桜の変遷の紹介。北井上の伝統と町ぐるみの敬老会の様子が説明されました。東富田の古い歴史をもつた「二丁回り」阿波踊り、大正時代のドイツ兵俘虜も見ました。

(佐藤義忠 記)